

令和5年度第2回霞ヶ浦自然観察会実施結果

日 時：令和5年5月20日（土） 10時～12時

テーマ：妙岐ノ鼻でオオセッカとコジュリンを観察しよう！

場 所：妙岐ノ鼻湿原（稲敷市浮島）

講 師：川崎慎二先生（雪入ふれあいの里公園所長・日本野鳥の会茨城県幹事）

内 容：

50haに及ぶ広大なヨシ原が広がる妙岐ノ鼻湿原は、シマガヤと呼ばれる良質の茅を生産する茅場で、茅刈りやヨシ焼きなど人の手が入ることで維持されてきました。そのことが、湿地の植物の多様性を育み、野鳥など動物のすみかを創生します。この妙岐ノ鼻では50種を超える野鳥の生息が記録されており、ヨシ原を主な生息場所とするオオセッカやコジュリンを探鳥できる貴重な環境となっています。観察会では、初夏のヨシ原でオオセッカやコジュリンをはじめとする多様な鳥類を観察します。

参加者：13名

担当職員：5名

パートナー：9名

結 果：

センターからのバスも現地集合の参加者も順調に集合することができ、予定の時刻よりも早く開会することができました。心配された雨は上がりましたが、風がかなり強く観察会の条件としてはやや厳しい状況の中、観察会のはじまりました。

まず、駐車場の近くにある高台の野鳥観察ステージで観察しました。眼下のヨシ原では、大きな声でたくさんのオオヨシキリが鳴いています。セッカの声もよく聞こえます。上空ではオオタカやトビが舞う様子も観察できました。鳥までの距離はありましたが、オオヨシキリ、セッカ、コジュリンがヨシや木の枝先にとまっている様子をフィールドスコープで観察することができました。

それから、妙岐ノ鼻の突端に位置する野鳥観察舎まで、稲敷大橋のたもとの歩道を歩きな

がら観察しました。大橋の橋脚の間から見えるヨシ原と反対側の水辺で、カワウ、オオバン、ダイサギ、アオサギなどの野鳥を観察することができました。

野鳥観察舎の近くには、ヨシ焼きを行っていない枯れたヨシが立っている場所が広がっています。オオセッカはこの枯れヨシがある環境を好むらしく、盛んにさえずりながら、ヨシ原から飛び上がり、また草むらに下りていく様子を観察することができました。

ヨシ原付近を移動しながら、ヨシ、オギ、カサスゲ、オニナルコスゲ、アサマスゲ（絶滅危惧種）などの植物を観察することもできました。

全体で観察できた鳥類は、オオヨシキリ、セッカ、コジュリン、オオタカ、トビ、カワウ、ダイサギ、アオサギ、オオバン、オオセッカ、スズメ、ホオジロ、セグロセキレイの13種でした。この悪条件の中での観察では、まあまあの成果と考えられるとのこと。たくさんの野鳥を観察できたのは、川崎先生の的確な誘導と指示のおかげだと思います。先生ありがとうございました。

第2回霞ヶ浦自然観察会



集合場所の駐車場で開会式



ヨシ原の広がる妙岐ノ鼻湿原



まず、高台の広場で観察を行う



枯れたヨシの残るヨシ原でオオセッカを観察する



妙岐ノ鼻の突端に位置する野鳥観察舎



野鳥観察舎で観察を行う



鉄条網にとまったセッカ (参加者海沼さん撮影)



妙岐ノ鼻湿原をつくる植物の優占種を観察する